**１号新任教育資料③－礼式・基本動作**

１．敬礼の基本

敬礼は「まごころ」をこめて行い、粗略または形式的であってはならない。

２．敬礼の通則

・上級者に対して敬礼を行い、上級者はこれに答礼し、同級者は互いに敬礼を交換する。

・敬礼は、受礼者が明らかに認めることができる距離のところで、

 相手に対して注目して行う。

・敬礼されたときは、何人に対しても必ず答礼を行う。

・敬礼を行う者は、受礼者の答礼の終わるのを待って旧姿勢に復する。

・廊下、車内、艇内社内では通常、室外の敬礼を行う、

 但し着帽していないときは室内の敬礼を行う。

３．室内の礼式

・室内に入る場合は、職務の執行上支障がある場合のほか、室外で脱帽する。

・(室内の敬礼)

受礼者に向かって姿勢をただし、注目した後、

 頭を正しく上体の方向に保ったまま、体の上部を約15度前に傾けて行う。

・帽子を持っているときの室内の敬礼は、右手で帽子の前ひさしをつまみ、

 内部を右ももに向けて垂直に下げ、左手で軽く警棒を押さえる。

 警棒を携帯しないときは左手を下げる。

4.室外の礼式

・(挙手注目の敬礼)

 受礼者に向かって姿勢をただし、右手を上げ、指を接して伸ばし、

 人指し指と中指とを帽子の前ひさしの右端に当て、手のひらを少し外側に向け、

ひじを肩の方向にほぼその高さに上げ、受礼者に注目して行う。

5.指示を受けるとき、報告をするとき

 相手から三歩のところで敬礼をしたあと、状況により適宜前進して指示を受け

(報告をし)、そのあと元の位置に戻って敬礼し、回れ右で退去する。

6.敬礼を行わない場合

 ・職務上追従する者は通常、敬礼を行わない。

職務上追従する者に対しても敬礼を行わない。

 ・儀式に参列したときは、その儀式において行う敬礼のほかは敬礼を行わない。

 ・儀式に参列している者に対しては敬礼を行わない。

 ・身辺警備業務に従事している者は通常、敬礼を行わない。

 ・現金輸送等に従事している者は通常、敬礼を行わない。

 ・自動車等を運転中の者、または船舶等を操縦している者は通常、敬礼を行わない。

 ・警戒勤務中は、報告するとき、または命令・指示を受けるときを除き、

通常、敬礼を行わない。

7．基本動作

・（きおつけ）

 両かかとを一直線上にそろえて付け、両足先は約45度に開いて等しく外に向け、

 両ひざは伸ばし、上体は正しく腰の上に落ち着け、

背を伸ばし、両肩をやや後に引き、一様にこれを下げ、

両ひじは自然に垂れ、たなごころ(手のひら)をももに付け、指を軽く伸ばして並べ、

中指をおおむねズボンの縫い目に当て、首及び頭をまっすぐに保って口を閉じ、

両目は正しく開いて前方を直視する。

・(休め)

 その場で左足を約20㎝(両かかとの内側を結ぶ最短距離)横に開き、

体重は両足にかける。

手は後に回し、右手の甲を左手でつかむ。

指揮者の許可がなければ談話等をしない。

・(右向け右、左向け左)

 回転側の足のかかとと、反対側の足のつま先とを軸として90度向きを変え、

 反対側の足を引きつけ、同一線上にそろえる。

・(まわれ右)

 右足をおおむねその方向に引いて、足先をわずかに左かかとから離し、

両足先を少し上げ、両かかとで180度右に回り、

次に右かかとを左かかとに引きつける。

8.巡回交替の一例

・巡回から帰って来た者Ａが立哨している者Ｂに対して巡回交替を告げる場面。

・Ａ：Ｂに対して正対・きおつけ

・Ｂ：Ａに対して正対・きおつけ

・Ａ：『報告します。Ａ、本館巡回を終了しました。異常ありません。』

・Ａ：敬礼。

・Ｂ：答礼、なおれ

 ・Ａ：なおれ

 ・Ｂ：『了解しました。Ｂ、これより北館巡回に出発します。』

 ・Ｂ：敬礼

 ・Ａ：答礼、なおれ

 ・Ｂ：なおれ、回れ右、巡回出発。

★留意事項

・挨拶は「明るく・やさしく・元気よく」

・動作は三段階「①正対・きおつけ ②挨拶・報告 ③敬礼・なおれ」の「語先後礼」

・無意識に体が反応するまで練習する(特に上位者に対して)

・上位者の“答礼・なおれ”を待って“なおれ”

・“照れる”・“馴れ合う”は禁物

・.上位者みずから率先垂範、下位者の見本となる

・着帽は手を添えて丁寧に。目深にかぶり“あみだかぶり”不可

・警備控室では脱帽

・下位者に対しては「育む気持ち」、上位者に対しては「敬う気持ち」

・制服は清潔に折り目正しく、きれいに着こなす

・常に「安全と安心を与える」職務を自覚し、端正な挙動をする

・態度はいつも「威・卑・落・気・馴・無・場」(イ・ヒ・オチ・キ・ナ・ム・バ)

※「威張る・卑屈になる・落ち着かない・気取る・馴れ馴れしい・無視する・

場にそぐわない」態度は不可